第４９７回

広島大学医学集談会

（平成17年12月１日）

――学位論文抄録――

1.　鍼療法の皮膚血流と発汗に及ぼす効果について

程　　為平
創生医科学専攻病態探究医科学講座（脳神経内科学）

鍼療法が自律神経機能に及ぼす影響について，健康成人10名を対象に鍼刺前後の皮膚血流量と交感性発汗反応の変化を検討した。皮膚血流量はレーザードプラー血量計を用い右示指にて，発汗は発汗記録装置を用い右拇指にて，同時に測定した。座位にて安静後，左前腕擦過・左手最大握力・瞬間深吸気の各負荷による血流量と発汗量を記録した。その後鍼灸針を用い，右曲池穴に約２cm 刺入した。置鍼中と抜鍼後に，同様の負荷を加え，血流と発汗の反応を観察した。置鍼時,各負荷後の回復期の血流量は鍼刺前と比べ増加し，抜鍼後には有意に増大した。最大握力や深吸気負荷により発汗量は鍼刺前と比べ置鍼時には減少し，抜鍼後にはさらに有意に減少した。以上の結果から，曲池穴への鍼刺激は発汗反応を抑制し，回復期の皮膚血流量を増加させることが示された。これらの作用機序として，鍼刺激によって高位中枢の自律神経下行性抑制系が賦活されることが推測された。